

## 第 33 期東京都青少年問題協議会答申【概要】

## はじめに

- 近年、様々な不安や悩みを抱えた青少年が、SNS 等を通じて、いわゆる「トー横」に集まり、児童買春等の犯罪被害に遭う事案等が発生
- 現在も、関係機関が各種対策を講じているものの、この状況に改善が見られないことから、更なる対策を講じる必要
- 「トー横」には、新宿区以外の青少年も来訪しており、広域行政体である都としても、向き合う必要があると認識。また、都内の「トー横」以外の地域において同様の環境が構築された場合、本検討は有効である可能性が高い。
- なお、「トー横」で現に生じている青少年の各種被害等の解消が喫緊の課題。来訪の背景にある家庭や学校等における問題の解消へ向け、関係機関の連携を念頭に置き、こうした各種被害等の抑止・軽減に極力焦点を絞り、検討を実施

## 第 1 現状

## 1 青少年の「トー横」への集結状況、被害状況等

- 警視庁等の関係機関によれば、「トー横」には数年前から青少年が集結。令和 5 年 4 月の東急歌舞伎町タワーの開業前後で大きな変化はない状況とのこと
- 集まる青少年につき、小学生も確認。多くは中学生、高校生で、女性が多い状況。また、都外に居住する青少年も多く確認
- こうした青少年が、悪意のある大人によって、児童買春等の犯罪被害に遭うなどしている状況
- 悪意のある大人による加害に関しては、青少年グループと親しい大人が言葉巧みに騙すなどして加害に至るケース等、様々な態様を確認
- 青少年の一部は、近くのホテルやネットカフェ等に一人又は複数名で泊まり、犯罪に巻き込まれている状況。また、こうしたホテル等を拠点として、「トー横」に長期滞在する者も確認

## 2 来訪の背景

- 都は、本協議会との関係で警視庁、児童相談所及び新宿区に対するアンケート調査や、(公社)日本駆け込み寺に対するヒアリング等を実施
- 来訪の背景として、家庭や学校における悩み、刺激・非日常感、興味本位、友人との付き合い、コンプレックス等の様々な理由が判明
- 来訪理由は、特定のものではなく、多様な理由が存在。また、複合的に絡み合っている場合もある。
- 彼らの発言内容から、青少年が「トー横」に「居場所」を求めてきている状況が少なからずあることが推測される。

### 3 青少年の来訪のきっかけ

- 令和5年1月に生活文化スポーツ局都民安全推進部が青少年の保護者を対象に実施した調査では、青少年における SNS 等の利用が広がっている実態が伺える状況が判明
- 関係機関によれば、「ト一横」に訪れる青少年の多くも、様々な背景から、何かしらの「居場所」を求め、SNS 等で「ト一横」を検索し、来訪している状況があることが確認されているとのこと。

## 第2 現在採られている主な対策

### 1 東京都生活文化スポーツ局都民安全推進部による取組

- 「ターゲティング広告」を活用した啓発（以下「ターゲティング啓発」という。）
- リーフレット等による啓発の実施

### 2 東京都福祉局による取組

- 若年被害女性等支援事業
- 児童相談所による一時保護等

### 3 警視庁による取組

- 補導活動
- 各種法令による取締り
- 防犯教室等を通じた各種啓発

### 4 新宿区による取組

- 民間警備会社に委託し見守り活動等を実施
- 歌舞伎町安全・安心対策事業等を通じた団体支援

### 5 民間団体による取組の例

- 困難を抱える者の相談等を実施

## 第3 犯罪被害等のリスクを抱える青少年の支援に向けた課題と解決の方向性

### 1 「ト一横」に被害等のリスクを抱える青少年が集まること

- 「ト一横」に集まる青少年については、犯罪被害等に関する危険性を認識できないなどした状態で、悪意のある大人に囲まれており、犯罪被害等のリスクが高い者といえる。
- 引き続き、警察による補導活動を行うとともに、本人のリテラシー向上や悩みの解消に向け、関係団体等と連携した相談対応や青少年本人に届く啓発等の対策を講じるべき。また、もう一步踏み込んだ実態把握も必要
- また、今後、SNS 等をきっかけとして、「ト一横」にやってくる者は少なからずいると予想されることから、SNS 等を活用した啓発等も重要
- 青少年に関係する者への対策も講じるべき。例えば、「ト一横」に集まる青少年の保護者に関する対策も検討すべき。関係機関の連携の在り方についても検討が必要

## 2 加害者となり得る悪意のある大人が青少年の周りに存在していること

- 「ト一横」に集まる青少年の周辺に、加害者となり得る悪意のある大人が集結。確信的に青少年に加害行為を行おうとしている者、確信的ではないが機会があれば青少年の弱みに乗じる者などに大きく二分
- 前者は、警告や警察の取締り、後者は、啓発等の推進が必要

## 3 被害場所等となり得る空間が存在していること

- 一部の青少年は、警察等を避けるため、「ト一横」周辺に存在する、ホテル・ネットカフェ等のうち、比較的利用ハードルが低い個室空間を利用
- こうした場所については、犯罪被害に遭う可能性が高いほか、青少年が複数人で宿泊すること等を可能とし、結果的に彼らが「ト一横」に長期的に滞在することを助長
- まだその実態が不透明であり、まずは実態把握を早急に実施することが必要。また、これと並行して、関係機関と連携し、啓発等の推進が必要

## 第4 都として喫緊に採るべき更なる対策

### 1 青少年への対策

#### (1) 一歩踏み込んだ実態把握の実施

- 第4の1(2)の相談窓口等の活用、関係機関との一層緊密な連携等により、青少年の声を直接聞き、その内容を分析すること等が考えられる。
- また、SNS上でオープンになり、誰でも見ることができる青少年の投稿を収集し、それを分析することも考えられる。

#### (2) 青少年が気軽に來ることができる相談窓口等の構築

- 関係団体等と連携し、青少年に対して、身を守るために必要な情報を伝えるとともに、彼らの相談内容に応じた適切な関係機関につなげることができるよう、従来の支援活動に捉われない相談窓口等の体制を構築すべき。
- この相談窓口等で得られた情報については、個人情報の取扱いに留意しつつ、関係機関間でも共有し、青少年への支援に活かすべき。
- なお、将来的な話になると思われるが、例えば、メタバース等を活用し、ネット空間上に、上記と同様の相談窓口等を設置する施策も考えられる。

#### (3) 「ト一横」における関係機関相互の緊密な連携

- 「ト一横」に関係する都、警視庁、新宿区等の関係機関が情報を共有、議論することが考えられる。

#### (4) ターゲティング啓発等の充実、強化

- ターゲティング啓発について、青少年の意見等を踏まえるなどして改良すべき。
- また、一般的な青少年に対するSNSを活用した啓発等についても充実、強化すべき。

#### (5) 青少年の保護者への支援

- 保護者の相談先について、パンフレット等にとりまとめて配布するとともに、都のHPに公開するなどの工夫が必要

## 2 悪意のある大人への対策

### (1) ターゲティング啓発等の充実、強化

- ターゲティング啓発について、関係機関の意見等を踏まえるなどして改良すべき。
- また、一般的な大人に対する SNS を活用した啓発等についても充実、強化すべき。

### (2) 「ト一横」周辺のデジタルサイネージ等を用いた啓発等の実施

- 第4の2(1)に基づいて作成した動画等を、関係機関と連携しつつ、「ト一横」周辺のデジタルサイネージ等を活用して放映するなど、大人の犯罪抑止に向けた活動を積極的に推進すべき。

## 3 被害場所等となり得る空間への対策

### (1) ホテル、ネットカフェ等への青少年の宿泊に関する実態把握

- 関係機関やホテル業界等と緊密に連携し、実態を更に解明することが必要。第4の1(2)の相談窓口等を活用して、こうした実態について情報収集を行うことも考えられる。

### (2) ホテル、ネットカフェ等に対する啓発

- 現時点で判明している「ト一横」における青少年の宿泊事実や被害態様等について啓発を実施すべき。そうした情報を記載した資料（パンフレットやチラシ等）を作成し、関係機関と連携の上、「ト一横」周辺のホテル等に配布する方法が考えられる。
- なお、こうした啓発を推進しても、問題が発生し続ける場合、将来的には、都の青少年健全育成条例の改正等、何らかの規制を行うことも考えられる。

## おわりに

- 「ト一横」における対策は待ったなしの状況。本来であれば、実態解明を行った上で、対策の検討を行うべきところ、それを待っては、「ト一横」における青少年の被害等が増え続ける可能性が高いことから、緊急に実施すべき対策について提案。今後の都の取組の速やかかつ効果的な実施を期待
- 一步踏み込んだ実態把握を踏まえ、より効果的な更なる対策についても検討がなされるよう期待
- なお、本答申で提言した施策は、現に生じている犯罪被害等への対処を念頭に置いたものであり、問題解決に向けたいわゆる「対症療法」に過ぎないという限界があることも認識
- 問題の改善に向けては、「ト一横」に来訪する青少年の背後にある、虐待やいじめへの対策等といった、彼らの根本の悩みを解消するための施策が非常に重要。関係機関が一層連携を密にし、今回の検討や本答申の内容を共有し、より一層強力に対策を講じることが求められる。
- 「ト一横」に集まる青少年は、都外からも来ている実態が認められる。必要に応じ、そうした道府県とも連携を取り、対応に当たる視点も大切